

### 3. ストーリーを活かす手法とは



**地域ストーリーづくりは、ある意味地域のブランディングである。  
これらを地域の新たな産業創造や観光地域づくりに資源として活用する  
ことが何よりも重要である**

# (1)顧客ごとに、「刺さる」ストーリーをつくる

- 物語は作り手の自己満足ではなく、地域を訪ねる人々を惹き付け感動と共感・支持をもらうことが不可欠。
- 物語の活用には、顧客属性(ペルソナ)ごとのサブ・ストーリー(どんな顧客が物語に共感し、感動するか)や、個々のエリアの属性や魅力を発掘したエリアごとのサブ・ストーリーづくり重要。そのためには綿密なマーケティングが必要。  
→これが現実の観光・事業化プログラムとなる。

## 例)「鎮守府・日本遺産物語(オリジナルストーリー)」

### 顧客属性(ペルソナ)ごとの編集

=サブ・ストーリー

顧客属性ごとのマーケティングとプログラムづくり

### 地域ごとの編集

=サブ・ストーリー

オリジナルストーリーをもとにした、固有の「呉物語」(サブストーリー)づくり

# 例)日本遺産「呉物語」の例では

「鎮守府」は近代以降の物語りに非ず

2018年に日本遺産追加認定となった北前船寄港地「御手洗」など島嶼部をどう取り込むか

## 呉は中世からの「鎮守」の府であった

平清盛が開削した音戸の瀬戸、「蕃固屋」、遣唐使・朝鮮通信使など饗応拠点、北前船寄港地・広島藩の先端基地(御手洗・日本遺産)

- ①訪日外国人の長期滞在拠点の整備
- ②テーマ顧客の滞在拠点づくり
- ③島嶼部・半島を結ぶ、近海クルーズの社会実験  
(音戸の瀬戸・朝鮮通信使の蒲刈・日本遺産北前船の御手洗など)



## (2)狭く「観光」に止まらず、産業を育てる 海軍工廠と今日の産業との係わりを活かす(呉海軍工廠の例)

### ■海軍工廠の遺伝子(DNA)は、重工長大産業だけではない

海軍工廠や都市を支えた電灯技術(明治32年呉市は県下で3番目)、市内電車(明治42年に全国で6番目)、電話・電報・水道・公園などの整備も他の都市より早かった。

■道路は海軍の指導で8間道路、水道は海軍から市に分与、野外音楽堂も海軍の寄付。市民は海軍を通して西洋音楽や西洋料理、それにバレー・ボールや野球を知った。

### ■清酒「千福」

海軍士官や海上自衛隊員ならば知らない者のない酒



### ■セーラー万年筆

ペン先の摩耗を防ぐために工場冶金部でメッキを行っている技師に相談して生まれた阪田の金ペン



地域文化とストーリー (第3回講座)

### ■「猫じゃすり」

戦艦由来の「やすり」技術を応用したヒット商品「猫じゃすり」



### (3) 旅行プログラムのためのガイドブック等の制作



鎮守府4市共通の「ストーリーブック」 「ストーリー」にそった観光ガイドブック

# (4)周遊の促進(スタンプラリーなど)

2017  
10.28.SAT

2018  
3.11.SUN



海軍さんの港まち  
スタンプラリー

## 日本遺産「鎮守府」

日本近代化の躍動を体感できるまち  
横須賀・呉・佐世保・舞鶴



横須賀

舞鶴

をめぐる

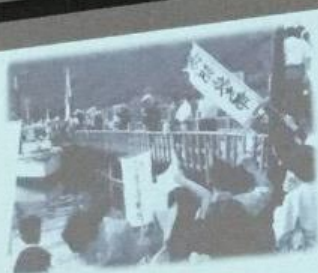
呉

佐世保

## (5) 観光ガイド育成と交流

海軍鎮守府4都市(横須賀・呉・佐世保・舞鶴)の各ガイド団体が集結して合同視察と学習会を開催。呉のガイドが横須賀を！、佐世保のガイドが舞鶴を！ガイドできることが目標!!

### 引揚港舞鶴



昭和20年から33年まで、  
国内で唯一

13年間にわたり心から歓迎したまち

引揚者 664,531人(約7割が旧ソ連方面)

遺骨 16,269柱

引揚船(のべ) 346隻

第1船 昭和20年10月7日 雲仙丸 2,100人

最終船 昭和33年9月7日 白山丸 472人

4

## (6) 事業を担う「ヒト」を育てる「くれ観光未来塾」の試み

- 呉市は、日本遺産認定(鎮守府4都市)を機に、民間事業者の起業塾を構想
- これら民間塾の開講に先立ち、行政各課に呼びかけ、17課25人(U-40)の塾生による「くれ観光未来塾」(第1期)を開講(2018年から「民間版」の塾が開講)。
- 塾では、これからの民間事業起業を促し支援するための新政策の検討を進めてきた。即効性のある優れた事業提案と支援策は新年度新政策に反映





# ■事業計画とこれらを支える政策支援策の提案フロー

## I. 呉にとって優先順位の高い事業構想・計画を作成する

事業構想(別紙「事業計画プランニングシート」)

- ①今の呉にとって優先度の高い事業は何でしょうか(日本遺産活用なども含めて)
- ②事業計画の絞込み・精査
- ③事業提案として完成

## II. これらの事業を実現するための手段や課題を整理する

Iの事業化を図るための基本課題を明確にしてください

- (例)
- |           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| ①事業体制     | : 事業主体は誰か。その法人格などは??              |
| ②事業の実施エリア | : どんな場所・エリアで実施する事業か??             |
| ③資金調達     | : どの程度の事業規模でしょう。そのための資金調達をどうするか?? |
| ④事業収支     | : 事業収支の見通しや運転資金はどうか??             |
| ⑤人材確保     | : 事業実施のための専門人材の確保や育成をどうするか?? など   |

## III. 課題を解決するための政策的支援・誘導などの方法を提案する

### <これが新政策に繋がる!!>

- ①IIの手段・課題を解決する考え方や具体的方法などについて提案してください。
- ②その他、実際の事業には、法制度面からの制約もありますが、これらをどうクリアするか  
<用途規制や公有地使用など>(都市計画法、河川法、港湾法、道路関連法など)  
<建築関連法など>(建築基準法や消防法など)  
<事業許可関連>(食品衛生法や風俗営業法など) などなど
- ③①②を解決するための政策的誘導などの手法について取りまとめてください(=新政策)

# おわりに ストーリーを活かすための課題

## ①「物語」の基本は「感動」「共感」／顧客マーケティング

物語は作り手の自己満足ではなく、当地を訪ねる人々を惹き付け、感動と共感・支持をしてもらうことが不可欠。つまり顧客目線が大切。どんな顧客が「鎮守府物語」「呉物語」に共感し、感動するか、綿密なマーケティングが必要。

## ②「物語」は観光客に向けてある前に**地域の人々の「誇り」「自覚」のシンボルに**

人口減少や経済的な疲弊などで、地域は自信を喪失している。素晴らしい歴史があるのに、それを見失っている。①の観点は大切だが、その前に、地域が自らの歴史を掘り起こして、誇りと自信を取り戻すことが重要。地域の皆さんは呉をどこまで知っているか。また誇りに思うか

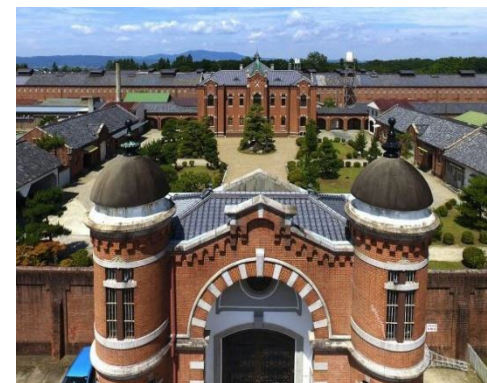
## ③**未来に受け継ぐ「持続的事業」へ**

各地の日本遺産活用事業の大半は、広報普及とイベント事業が多い。しかし、日本遺産を活用しその価値を後世まで伝えるためには民間主導による持続的事業へと発展させる必要がある。イベント主導から新たな事業創造が不可欠である

## ④**地域の文化資源を「経済財」に**

日本遺産などの文化財は「経済財」として活用してはじめて地域活性化につながる。スペインのパラドールではないが、日本でも文化財級の資源・空間をレストランやカフェ、ホテルなどとして活用することについて積極的な取り組みが欲しい

(旧奈良刑務所をホテルに。「日本遺産ホテル」の構想など)



# おわりに 『歴史的投資』という言葉

1960年代後半からの小樽運河論争の渦中、当時、通商産業省事務次官の故佐橋滋氏は、朝日新聞社主催の講演会で《**歴史的投資** ヒストリカル・インベストメント》という概念を提示、運河の埋立てに反対した。

**「投資とは本来、現在の消費を抑え、後日に喜びや恩恵を与えてくれる。それは長い年月や歴史だけが創りだせる投資で、後々まで人々に精神的喜びや感動を与えてくれるのだ」(佐橋滋講演録より)**



**「地域資源の活用」とは、地域の「歴史的投資(資源)」を活かし、次の時代の新たな産業や雇用を生み出す行為と言える。**